
普通のファンタジー

社会の歯車・在庫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

普通のファンタジー

【Nコード】

N4372Z

【作者名】

社会の歯車・在庫

【あらすじ】

魔法や魔物、天界に魔界と言ったファンタジー溢れる世界『スキアー』宛ての無い旅を続ける青年、ヴェリテはヘリオス行きの船に乗船していたが、魔王軍の襲撃に合いうんたらかたら

甲板にて。(前書き)

初描きです。

中二過ぎるダサイ小説ですので、

ダメだろと思う点を指摘していただけるとありがたいです。

甲板にて。

虫の息となった一体の魔物が俺に言った。

「き、貴様……一体何者だ!？」

俺はこう答えた。

「俺の名はヴェリテ、どこにでもいる普通の青年だ。」

魔物は血を吐きながら答えた。

「き、貴様のような普通の青年がいるか!! 剣先の炎はなんだ!？」

「油」

「……………マジ?」

「マジだ。」

「……………。」

魔物は息絶えた。醜い顔だが悲壮感に満ちていた。

丁度午前2時過ぎ、満月の夜。この船には魔物が溢れている。

大半は元乗客のゾンビだが、ダルマのゾンビが多過ぎる。

胴体と顔のゾンビを増やすくらいなら、バイオとかでよくある触手とかの方がまだ可愛げがあるというものだ。

「誰かー！！誰か助けてー！！」

銃声一つで奇声を上げそうな少女が助けを求め悲鳴を上げている。助けようと思ったが時既に遅し、腹から飛び出た小腸を引っ張られている。

しかも小腸はピンと張っており……と思った矢先に小腸は千切れた。

自分は良心を持っている方と自覚しているがこういう光景はどうも心が躍る。

SだとかMだという問題ではない、良心以上に悪魔地味だ何かを持っているのだろう。

「おい、こつちだ！！早く乗れ！！」

一世代前のBL漫画のような顎の尖ったおっさんが俺を呼んだ。青色が魔方陣が見える、大方ご都合主義の転送魔方陣と言ったところか。

俺としては、もう少しのた打ち回る少女を鑑賞したかったが自分の身のこともある。

俺はAGO船長の脱出艇に乗り込み、遭難フラグを感じながら惨劇の船を後にした。

甲板にて。(後書き)

こんなしょうもない小説を読んただきありがとうございます。
前書きにもありますが、

悪い点がありましたら迷わず感想としてこちらへお送りください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4372z/>

普通のファンタジー

2011年12月15日01時48分発行